



荒川中だより

青い雲

教育目標 「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

令和6年度 第7号
令和6年11月14日発行
村上市立荒川中学校

躍進 荒川中 生徒会

校長 西村 諭

旧荒川町の木 山茶花（さざんか）の花が咲き始めるころとなりました。

10月19日には多くの保護者・地域の皆様から、青雲祭にお越しいただき誠にありがとうございました。

さて、11月8日に当校体育館で、「いじめ見逃しゼロスクール集会」が行われました。児童生徒が主体の取組であり、生徒会書記局が企画・運営のほとんどを行いました。

全校生徒と中学校区の2つの小学校6年生が対象であり、生徒会書記局が行った準備は大変だったと思います。

生徒会書記局は、事前に3校からいじめに関する意識調査を行い、結果を分析して、いじめについて深く考えられるような事例をつくったそうです。そして、当日はその事例に基づくグループ協議が円滑に行われるよう運営し、充実した集会を創り上げました。

また、初の試みとして、3小中学校の学校運営協議会の皆様からもグループ協議に参加していただきました。そこでも、生徒会書記局が委員の皆様に対して、案内や説明を行うなど、精力的に活動をしていました。

「いじめ見逃しゼロスクール集会」だけでなく、これまでの生徒会の取組は素晴らしいものばかりでした。生徒の活躍の原動力は何なのでしょう。

根底にあるのは「荒川中学校のために」「一人一人の児童生徒のために」という気持ちであり、生徒には目指す生徒会の姿がしっかりとイメージされているからだと思います。

また、信頼関係が構築され、リーダーが活躍できる環境が、全校生徒によってつくられています。

朝のあいさつ運動や玄関清掃で一日が始まり、その後も様々な場面で委員会活動が展開されています。昼の放送では、翌日の当番を紹介する際、「学校のために働いていただき、ありがとうございます」とコメントが入ります。生徒はお互いをよさや頑張りを認めたり、先生方の話やアドバイスを素直に聞いたりすることができます。

他にも全校生徒が楽しめる青雲祭前日祭の開催や、半袖シャツやカーディガンの着こなし方について生徒会が提案するなど、生徒による生徒のための活動が展開されています。

めざましい躍進を遂げている荒川中生徒会。

私たちは、今後も「荒川中学校のために」「一人一人の生徒のために」という生徒の主体的な活動を支援し、笑顔と希望にあふれる学校づくりに努めて参ります。



『生徒が委員の皆様へ挨拶』



『生徒玄関での挨拶運動』